

未来を彩るキミたちへ  
共創と創造vol.1

2026

2.28|土|

14:00~16:30 [受付13:30~]

会場 | グランツたけた キナーレ  
大分県竹田市玉来1-1

サックス



鈴木広志

©photo/Maki Takagi

ピアノ



宮本貴奈

©photo/Toshiya Suzuki

サウンドスケープ  
コンポジション

清水慶彦

コンテンポラリーダンス

アコースティックフィールド

久保二朗



小暮香帆

©photo/Makoto Ebi/@makotoebi.photographs

立体音響



久保二朗

定員／70名・申込み順

参加費／無料

対象／一般・学生（小学校高学年～大学生・専門学校生）  
※小学生は必ず保護者が同伴ください。大分駅から会場への送迎バスを予定しています。  
送迎無料・事前予約制

Oita University  
**STEAM EAC**  
STEAM Education Advancement Center

参加申込はこちらのサイトから  
お願いします。<https://form.run/@symposium2025>問い合わせ先／大分大学STEAM教育推進センター  
e-mail : steam-center@oita-u.ac.jp [担当: 竹中]

主催：大分大学STEAM教育推進センター 共催：大分大学理工学部 後援：大分大学ダイバーシティ推進本部

日々進化するサウンドテクノロジーがヒトの感性や想像性を拡張し、コラボレーションする中で感性がまざり合う瞬間、テクノロジーと人間が共創する未来の文化的価値が創造される。

今回のシンポジウムで使用する8ch立体音響は、株式会社アコースティックフィールドの技術で、イマーシブな聴覚体験を実現するサウンドシステムとして、近年エンターテインメントの世界でも注目されています。「今そこに実存しない世界を構築する」立体音響は、ヒトの感性を刺激し、イマジネーションを湧き起こさせる基となります。

シンポジウム前半では、8ch立体音響の中に身を委ね、作曲家・清水慶彦氏の背景楽曲を刺激剤として、ピアニスト・宮本貴奈氏、サックス奏者・鈴木広志氏、ダンサー・小暮香帆氏の3名による即興がつくり出す躍動を感じて、その世界をお楽しみください。

シンポジウム後半では、株式会社アコースティックフィールドのサウンドエンジニアである久保二朗氏にも加わっていただき、それぞれのキャリアについてお伺いしながら、未来の文化の担い手となる若い世代、そして、その人材を支え育てる世代に向けて、テクノロジーと人間の共創による新しい文化的価値の創造について考究したいと思います。

## 宮本 貴奈

MIYAMOTO Takana



- ピアニスト／作編曲家／ボーカリスト

物語が見えるようなサウンド、多彩なピアノスタイルで、ジャズ・ポップスからクラシック、弾き語り・コーラスワーク、音楽監督・オーケストラ編曲、劇伴、など幅広く活躍。米英で20年活動、約30カ国で演奏。1998年エドマン・ジャズピアノ大会で全米優勝、ピアノ&アレンジ参加アルバムが米グラミー賞2部門でノミネート、「アトランタベストジャズ(2年連続)」「ジョージア州で最も影響力のある女性」他、受賞多数。バークリー音楽大学の映画音楽作曲＆ジャズ作曲両学部卒、ジョージア州立大学ジャズ教育学修士卒、同大学講師。2013年帰国。国立音楽大学講師。2020年『ワンドフル・ワールド』発表、ミュージックベンクラブより最優秀作品賞受賞。2023年ミューザ川崎シンフォニーホールアドバイザー就任。

## 鈴木 広志

SUZUKI Hiroshi



- サクソフォン奏者／作曲家。東京藝術大学在学中より「チャンチキトルネード」の中心メンバーとして活躍。同バンドの休止後は多彩なプロジェクトで

FUJI ROCK FESTIVAL、London Jazz Festival、North Sea Jazz Festival、瀬戸内国際芸術祭、関西・大阪万博2025などに出演し、国内外の音楽／アートシーンをニシヘヒガシへ。大友良英、清水靖晃、小野リサ、林正樹、森山直太朗らと共に演を重ねている。また、NHK連続テレビ小説『あまちゃん』『虎に翼』の劇中音楽など、録音分野でも活躍。作曲家として国宝「上杉本洛中洛外図屏風」や谷川俊太郎のCDブックをはじめ、美術作品、舞台・映画・TVCの音楽を手がけている。フルートやクラリネット、木の実で出来たアフリカ発祥の楽器“アラート”を駆使して2025年11月にソロアルバム「floracomposia」を発表した。

## TIMETABLE

14:00 第一部

ソロ／鈴木広志

コラボレーションI

鈴木広志×アコースティックフィールド×清水慶彦

コラボレーションII

宮本貴奈×鈴木広志×小暮香帆×アコースティックフィールド×清水慶彦

ソロ／宮本貴奈

コラボレーションIII

宮本貴奈×小暮香帆

15:00 休憩

第二部

パネルディスカッション[~16:30]

## 小暮 香帆

KOGURE Kaho



- ダンサー／振付家

踊ることを始めたのは6歳の時。2012年日本女子体育大学舞踊学専攻卒。近年は舞台、ミュージシャンや他ジャンルのアーティストとのコラボレーション、音楽フェス、メディアなど様々な領域で幅広く活動し、動きの美学を展開している。

即興から身体への新たなアプローチを探り振付、表現する。ソロでは3カ国9都市で作品を発表。また、多くの振付/演出家作品に出演し、海外ツアーに参加している。近年ではFESTIVAL De FRUE2024、映画、CM、MVへの振付出演、写真展「second hand」、「beautiful people 2023 S/S」パリコレクション出演、ワークショップ講師など活動の幅を広げている。DaBYレジデンスアーティスト。めぐりめぐるものを大切にしている。

## 久保 二朗

KUBO Jiro



- 株式会社アコースティックフィールド代表取締役／立体音響技術者

アナログミキシングコンソールから最先端のデジタルプロセッサーまで、高品位なプロオーディオ機器を幅広く扱う輸入代理店のセールスエンジニアとしてキャリアをスタート。2007年、株式会社アコースティックフィールドを設立。現在まで立体音響を中心とする多くの特殊音響システム開発やコンサルティングを行い、その豊富な経験を軸に、サウンドアーティストの立体音響による音楽制作やインスタレーションを技術面からサポートしている。2014年、ヘッドフォンおよびイヤフォンでの音楽リスニングに特化した高音質バイノーラルプロセッシング技術「HPL」を発表。音楽制作の他、放送および配信での普及を目指す。音楽を“作る”“聴く”ための新しい環境作りがライワーク。

## 清水 慶彦

SHIMIZU Yoshihiko



- 作曲家／怪談作家

フィールド・レコーディングやサウンドスケープ・コンポジションに注力しつつ、奇談怪談の収集著述に勤しむ。作曲家として作品集CD『六相円融』(studio N.A.T.)が『レコード芸術』誌推薦盤に選定、作品はニューヨークでの音楽祭

「ミュージック・フロム・ジャパン2018」等でも上演されている。怪談作家(筆名：丸太町小川)として単著怪談集『大分怪談』(竹書房怪談文庫2025年)、『実話拾遺うつせみ怪談』(竹書房怪談文庫2023年)など。京都市立芸術大学音楽学部作曲専攻を学部賞・京都音楽協会賞を得て卒業、同大学院博士後期課程修了、博士(音楽)。同大学院交換留学制度によりドイツ・ブレーメン芸術大学にて研鑽を積んだ。大分大学教育学部准教授。大分県立芸術文化短期大学非常勤講師。